

CBC ラジオ  
「北野誠の  
ズバリ」さん  
ありがとう

## イルカ作業所の 「たふきん」を紹介しました。

3月3日（水）のお昼にCBCラジオの「北野誠のズバリ！」もつたないキヤンペーン」という番組コーナーに出演しました！今回出演にいたたったのは、「イルカ作業所のふきんの在庫を売り切りたい」「仲間の給料確保に向けて何かしたい」という利用者と職員の願いから出発でした。2月より地域のお店や個人宅への営業など自分たちでできることを、できる限り行動してきました。その中でCBCラジオの番組で「良さそうなコーナーがある」と聞きつけ応募してみました。

CBCラジオ担当の方と利用者・職員と一緒に内容を考えること2週間：ついに番組出演です。緊張しながら、出演する職員が受話器を持ち、利用者と他の職員がラジオに釘付けになる中で7分ほどの出演でした。出演直後から注文の電話がなりやまんませんでした。放送後1ヶ月ほどお



（イルカ作業所 村田・柳沼まで）  
☎052-302-1075

3月3日（水）のお昼にCBCラジオの「北野誠のズバリ！」もつたないキヤンペーン」という番組コーナーに出演しました！今回出演にいたたったのは、「イルカ作業

所のふきんの在庫を売り切りたい」「仲間の給料確保に向けて何かしたい」という利用者と職員の願いから出発でした。2月より地域のお店や個人宅への営業など自分たちでできることを、できる限り行動してきました。その中でCBCラジオの番組で「良さそうなコーナーがある」と聞きつけ応募してみました。

なお、イルカ作業所では品質に自信のある通称「たふきん」を1枚230円（税込・送料別）で販売しています。どうぞ注文ください。

### 編集後記

明日をつむぐ「青葉号」はいかがでしたでしょうか。

今回の号から新たな試みとして「各事業所のイチオシ商品／イチオシの取り組み紹介」が始まり、また実際に現場で携わっている仲間、職員の様子が見える「笑顔みつけた！」、「みなどとわたし」も始まりました。

今号ではしおかぜさんの取り組みや、イルカさんの「たふきん」、あしたの家さんの「相談支援」といったような、各事業所での取り組みや利用者さん、職員さんといったいろんな事業所からいろんな表情を読み取ることができます。

ミラクルファームさんの、季節ごとの収穫などの話題も必見です。

新しい試み盛りだくさんの読み応えのある内容でしたね。今回青葉号においてご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

次回の「明日をつむぐ」もお楽しみに。

（小池友紀子）

### 寄付お礼

#### イルカ作業所 「日本財団」の 補助金で車両

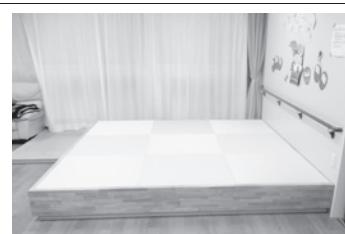
長らく、これまでの車両を乗り続けてきたイルカ作業所。希望も多く、人気の日本財団様ですが、応募してみたところ、補助決定の通知が！久しぶりの新車の登場に、仲間の皆さんも大よろこび。



今回は福祉車両ではなく、バリアフリーの工夫が随所についている「送迎車両」での補助をいただきました。大きな取っ手や、乗降時に出てくるステップなど、快適な乗り心地です。コロナ禍の現在は、主に送迎での利用ですが、コロナ終息後には快適な車に乗っての外出を心待ちにしています。

### 寄付お礼

#### あしたの家 「松の花基金」で 小上がりを設置



「令和2年度松の花基金助成事業」で、1階の活動室に小上がりを設置することができました。小上がりを作ったことにより、利用者のみなさんがゆったりと休憩することができるようになりました。

利用者、職員ともども大変うれしく思っています。厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

# とともに育つ会 ニュース



港区障害者(児)とともに育つ会  
〒455-0803 港区入場1-114-1  
TEL(052)355-8000

2021年 青葉号

私たちには、頑張ってきたつもりですが、それでも全ての障害者が安心して暮らせる場の選択肢があるのか、そして障害者が安心して暮らせる場の選択ができるのか。

当然、高齢化が進み、親も同じく社会資源が必要なのに。

憲法25条の「尊厳」を守るのは、どうなっているのか。

WHO憲章で「健康とは、病気ではないとか、弱っていないとかという事でなく、肉体的にも精神的にも、そして社会的にも全てが満たされた状態にある」という」とある。

私たち障害者家族は、そのことによって疲弊してきている。

国は、脱施設を掲げるだけで、社会資源は国が増やさなければ。

障害者と家族の尊厳を守るため、来年の「障害者総合支援法」改定にむけて「障害者権利条約」の精神が基本となるよう、私たち障害者家族が国から見放されていないと知る「ファクター」を願っています。

港区障害者児とともに育つ会 会長 磯崎明美

ともに育つ会は、2年後に50周年を迎えます。障害児の不就学をなくす運動をきっかけに「愛知県障害者児の生活と権利を守る連絡協議会」に加盟をし、多くの障害者児のための運動を実現に結びつけてきました。

その頃、まだ遠い先のことと先延ばしにしてきた老後の問題です。しかし遠い先の話が今、大きく私たちの前に横たわり、悲しい事件が起こっています。

今の制度では、家族介護が前提で、当たり前には障害者家族が力尽くるまで支えているのが現状です。

私たちは、自らの手でバザーや廃品回収、寄付を集め、作業所づくりやグループホームという社会資源を全効力で、この30年間、作り続けてきました。



## 2019年、42回まで続く 港区障害者児合同クリスマス会



45年前、旧港保健所で、親の手づくりクリスマス会で、子どもたちのうれしい顔



新しく建設された港区役所講堂で合同クリスマス会。親がつくったペーパーサーのオオカミに喜ぶ障害児



40回以上続いたクリスマス会に20年に渡ってお菓子のプレゼントを200人に寄贈続けて下さったイオンベイシティさんが閉店されたので、お礼の花束を穂刈秀彦店長に贈呈